



おおい町長  
ときおか しのぶ  
時岡 忍 さん

昭和12年生まれ。会社員を経て昭和63年に日新工機（鉄工会社）を設立し代表取締役役に就任。平成8年から大飯町収入役を3年間務め、平成11年大飯町長就任。平成18年3月、大飯町と名田庄村合併に伴い大飯町長退任。平成18年4月におおい町長就任。現在3期目。

トットプロ

きく

## 福井県おおい町

## 時岡 忍 さん × 新欣樹

(おおい町長)

(電源地域振興センター理事長)

海、山の自然に恵まれ、古くは大陸から畿内への文化伝来の道であったおおい町。原子力発電所立地地域の強みを活かしてインフラを充実させてきた。今後、地域の魅力をまちづくりはどう活かしていくのか。交流人口の増大による町の活性化を目指す時岡町長にお話を伺う。

### ■福井県おおい町 (人口：約9,000人 面積：212km<sup>2</sup>)

福井県の南西部に位置し、西は大飯郡高浜町、京都府綾部市、南は京都府南丹市、東は小浜市、滋賀県高島市に接しています。町域の90%以上を山林が占め、京都府との県境を源とする二級河川・佐分利川水系と南川水系が西から東へ向かって流れ、小浜湾に注いでいます。青戸の入り江を挟む大島半島とは、青戸の大橋によって結ばれています。大島地域に設置されている大飯発電所は西日本最大の電力供給基地として関西エリアの約4分の1の電力をまかっています。

### ■原子力関連施設

#### 大飯発電所

出力：471万kW(1～4号機計) 運転開始：昭和54年3月(1号機)  
事業者名：関西電力株式会社

### ■今号の表紙

若狭おおいのスーパー大火勢(おおがせ)





ホテルうみんぴあ：交流人口や産業の活性化をねらいとした複合施設群「うみんぴあ大飯店」にあるホテル。



長井浜海水浴場：人工海浜の海水浴場で芝生広場やサニタリー棟など充実した施設が自慢。



野鹿(のか)の滝：グリーンツーリズムで注目されている旧名田庄村にある嶺南地方最大の落差30mを誇る滝。

## 「平成の合併」による再出発

**新**・平成十八年三月に旧大飯町と旧名田庄村が合併し、「**おお**い町」が誕生してから約四年が経ちましたが、合併の経緯やご感想をお聞かせください。

**時岡町長**：私が旧大飯町長の時に旧名田庄村との合併を決断した理由は二つあります。第一に、市町村合併は全国的な動きであり、特に人口一人人未達の自治体は合併による規模・能力の充実および行財政基盤の強化が必要とされていきました。第二に、旧大飯町と旧名田庄村はともに川の両側に集落が存在する環境にあり気質も似ているため、合併後の融和がすすみやすいと考えました。

合併を契機に、福井県にインフラ整備の推進をお願いし、現在大津呂ダムの建設および県道坂本高浜線の改良工事が進められています。大飯地区はこれまで夏期においてしばしば深刻な水不足に見舞われており、更に「うみんぴあ大飯店」の開発による水需要の増大も見込まれています。このため大津呂ダムによる水道用水の供給が期待されています。県道坂本高浜線は大飯地区と名田庄地区を直接結ぶ唯一の幹線道路ですが、両地区間は急峻な地形でヘアピンカーブが連続し、幅員が狭いこと

から大型車の通行が不可能で、冬期は一般車の通行でさえ困難になっています。また、夏場は京阪神からの海水浴客による交通渋滞が頻発しています。大飯地区、名田庄地区ともに人口が減少している状況において交流人口の増大による活性化は大変重要であり、道路整備により両地区間の交流および外部との交流に弾みがつくことが期待されます。

**新**・合併に伴い、いろいろとご苦勞もあつたことでしょうか。

**時岡町長**：旧大飯町は昭和三十年に佐分利村、本郷村、大島村の三村が合併してできた町です。役場職員や住民が出身地の違いを越えて融和し、一つの町としてのまとまりができるまで幾多の苦勞と五十年もの歳月を必要としました。

旧大飯町と旧名田庄村は合併後四年が経過し、保険料や税額の統一を

行ったほか、子ども会事業や高齢者スポーツ大会などを両地区の住民が集い開催するようにする等、融和にむけて取り組んでいます。これから、両地区が真にひとつの町として感じられるよう更なる取り組みを継続してまいります。相場の労力と時間を必要とするであろうと覚悟しています。

## 「おお」なる自然と文化、訪れる人へのまごころの心

**新**・人口減少・少子高齢化が進行していく状況において、複雑・多様化する住民サービスを提供していくためには合併が一つの選択であったのでしょうか、合併後のおおい町にとっては旧大飯町の美しい海岸や海水浴場と旧名田庄村の山里などのバラエティに富んだ自然環境は大きな強みなのではないでしょうか。



電源地域振興センター理事長

あたらしく **新 欣樹**

昭和18年生まれ。昭和40年、通商産業省入省。科学技術庁長官官房長を経て、中小企業庁長官などを歴任。石油公団理事などを経て日本原子力発電株式会社副社長、平成21年7月より財団法人電源地域振興センター理事長。



**時岡町長**..お

い町ではグリーンツーリズムやブルーツーリズムなど、観光や体験型学習による交流人口の増大を目指して

ます。海を中心とした交流、山を中心とした交流の二本立てのメニューが示せるというのは、観光客にとって魅力的なのではないかと思えます。また、町民にも人の良い、穏やかな人が多く、町が目指している「訪れる人へのもてなしの心」が既に備わっているものと考えています。

大飯地区において、うみんぴあ大飯は原子力立地の集大成として、交流人口の増大や、産業の活性化をねらいとした施設群であり、ホテル、マリナー、福井県の児童施設、関西電力㈱のPR施設が立地していま



大飯発電所：面積約188万m<sup>2</sup>の広大な敷地にあり関西電力では最大の発電所として4基合わせた総出力が471万kW。(写真は関西電力㈱提供)。

す。現在もレジャー、教育、文化、飲食、物販関連の企業・団体を主たる対象として企業誘致活動に取り組んでいます。このうみんぴあ大飯を、町一番の賑わいの場として創出していきたいと考えております。例えば、地元野菜などの地場産品を格安で販売できるようなスペースを設けるなど、地元で農業や商売をしている方に出版していただけるようになればよいと思っております。

また、名田庄地区では夏期に「星のファイエスタ」という祭りが開催されます。街部には光があふれていますが、山間部は外の光が少なく美しい星空を楽しめます。地元の若者たちの手で運営されており、町内外の人からも愛される、町に欠かせない元気の源となっております。  
**新**・夏期には大火勢おおがせという勇壮な祭りもあるようです。

**時岡町長**..スーパー大火勢のことですね。もともとお盆の送り火行事として三百余年の伝統がある大火勢が発祥でして、これをイベントにしたのがスーパー大火勢です。燃え上がる高さ二十メートル、幅八メートル、重さ一トンの木の葉型の巨大松明たいまつを若衆が「ヤッサー、ヤッサー」という勇ましい掛け声に合わせて回転させます。あたり一面に火の粉が飛び散る壮大な火祭りです。毎年多数の観光客が訪れ、町が一年で一番活



星のファイエスタ：8月中旬に開催される星がテーマの夏祭り。コンサート、パレード、花火大会、幻想的なレーザーショーなどが開催される。

気づく時でもあります。このスーパー大火勢も星のファイエスタと同様、住民の手作りイベントとして町を益々元気にしてくれています。

**新**・京都、奈良は春、秋には過ごしやすいのですが、夏はどちらも盆地にあるため大変暑く観光には不向きな季節と思われる。若狭湾沿岸の市町が連携して夏期の観光イベントで誘客をはかるようになると面白くなりますね。

一方、おおい町は古くからの歴史のある土地であり、寺院や仏像などの文化財も豊富と聞いております。歴史好きの人たちには魅力のある町ではないでしょうか。

**時岡町長**..旧大飯町の大島半島はかつて「陸の孤島」と呼ばれたほど交通が不便な場所だったにもかかわらず、仏像や寺院などたくさん文化

財が残っています。古代には中国や朝鮮半島からの渡来人が多かったよう、大陸から伝来した仏教文化が京都や奈良に伝わる通り道だったと考えられます。大島半島に清雲寺というお寺があるのですが、そこに安置されている三尊一具さんぞんいちぐ(毘沙門天、吉祥天、善膩師童子)は鎌倉時代の作品で重要文化財として国から指定を受けております。三尊一具で指定を受けているのは清雲寺のほか京都府の鞍馬寺と高知県の雪深寺の二寺しかなく、おおい町の貴重な財産です。

また、旧名田庄村は平安時代の有名な陰陽師おんみょうしである安倍晴明あべのせいめいを祖とする土御門家の荘園があったところ。土御門家は京の公家ですが、鎌倉時代末期に名田庄と初めて関わりを持ち、応仁の乱により京都が戦火に見舞われた後、名田庄に移住しました。厩うまや会館では土御門家に関する資料や、暦、易、天文などの資料を展示しています。



若狭おおいのスーパー大火勢：高さ20m、重さ1トンの木の葉型の大松明を回転させる祭りで嶺南地方を代表するイベント。約300年前から伝わるお盆の送り火行事が発祥となっている。

## 原子力発電所を活かした まちづくり

**新**・新興国の経済発展に伴う化石燃料価格の高騰および地球温暖化問題への対策として、原子力発電の推進は極めて有効であり、国策として実施されてきました。おおい町は西日本最大規模の原子力発電所を誘致することで、国策に協力してきました。このことは大いに誇りを持ってよいことと思います。原子力発電所の誘致によって町はどのように発展していきましたか。

**時岡町長**・私は若い頃、大阪に住んでいました。帰省して駅から出ると、目の前の道路は未舗装で土ぼこりがむんむんと立ちのぼっていたのを覚えています。当時の大飯町には目ぼしい産業がなく、町民の多くは町外に働きに出ていました。その頃、発電所誘致について賛成派と反対派が激しく対立しており、町長のリコールにまで発展しました。その後、原子力発電所が立地することとなり、



安定的な税収によるインフラ整備や雇用機会の増大をはかることができ、地域が大きく発展しました。町財政も破綻寸前だった

のが普通交付税の不交付団体になりました。今から振り返ってみると、激しい対立を克服し、原子力発電所の誘致を決断した先人たちの先見の明に感嘆せざるをえません。

**新**・電源立地地域対策交付金の活用状況はいかがでしょう。

**時岡町長**・電源立地地域対策交付金の使途は多岐にわたりますが、例えば昨年度ですと、うみんぴあ大飯に立地しているホテルの建設や水産加工施設の整備に活用しました。

うみんぴあ大飯に立地しているホテルは昨年十月に営業を開始しましたが、おかげさまで当初予測を上回る稼働率で推移しています。うみんぴあ大飯には福井県の児童施設や関西電力㈱のPR施設があり観光客の人気を集めています。以前は食事をするところ、宿泊するところはありませんでした。ホテルの営業開始により、ようやくインフラ整備が一段落したところです。今後、ホームセンター等の進出が予定されており、発展が楽しみです。

水産加工施設は、地元で獲れる水産物をへしこ、干物、かまぼこ、天ぷらなどに加工するための施設です。今年の四月下旬、大島地区にオープンしました。小魚や水揚量が少なく市場に出せない魚などこれまで捨てられていた水産資源の有効活用により、また加工による高付加価値により、漁業者の所得向上をはかることができるものと期待しております。

今後も住民福祉の向上や地域活性化に資するような様々な事業に交付金を活用し、原子力立地のありがたみを感じていただければと思っています。

**新**・時岡町長は今年三月の選挙で三選を果たされたわけですが、三期目の町政に向けた抱負をお聞かせください。

## 今後の課題と展望

**時岡町長**・うみんぴあ大飯、保健・医療・福祉の総合施設「なごみ」、光ケーブルを使った高速通信網などハード面でのインフラ整備は一段落しました。これからは人の力を引き出していくために、ソフト面での工夫が必要となります。

町には特産品開発を目標にがんばっているグループがいくつかあります。例えば、「おおい夢工房」という女性グループは、会社組織となつたのですが、地元の特産品である梅を用いた無添加のゼリーやジャムなどの加工品開発や、地元の大豆と米を使用した味噌作り等を実施しています。また、先ほどお話しした水産加工施設では大島漁協女性部の「島じゃこ倶楽部」と大島の主婦グ

ループ「たまたまばこ」がへしこ、干物、練り製品などを生産していくことが予定されています。町はこうした地元の担い手たちが活動しやすいよう商品開発や販売促進その他の面でバックアップし、町の魅力を全国に発信できるように特産品が生まれることを期待しています。

町民の創意工夫による特産品開発や観光開発等による交流人口の増加を促し、さらには総合計画の目標としている定住の促進、活動の促進につなげていくよう、全力で取り組んでまいります。

**新**・おおい町のまちづくりに向けた取り組みがよくわかりました。町民の皆さまの創意工夫によりおおい町が一層発展していくことを楽しみにしております。本日はありがとうございました。

